

「プレゼントツリー」の植樹イベントに参加して

株式会社東海テクノ

伊藤みち

1. はじめに

弊社では毎月、お客様とつながるツールとして「かわせみ通信」というニュースレターを発行しています。しかし、様々な情報を継続して掲載していくことは社内外の協力が不可欠です。科学や環境という視点を軸に、メイン記事には産官学問わず、様々な方にインタビューを行うこともあります。その中で、昨年秋に『認定NPO法人環境リレーションズ研究所』様にインタビューに応じていただき、プロジェクト「プレゼントツリー」のお話を伺いました。本誌でも2022年12月号に掲載されていたため、お読みになった方も多いかと思えます。弊社ではこの活動に賛同し、森づくりに何か関われないかと検討し、弊社が取り組んで進めている電子計量証明書(e-計量)とのコラボ企画「e-計量、発行すればするほど、森が広がる！」活動を始めることといたしました。

2. e-計量 発行状況について

弊社では2019年に水質分析の証明書からサービスを開始しました。以降、順次適用範囲の拡大を進め、2023年5月現在、大気・作業環境など7媒体の証明書における電子発行が可能となっています。DX化への時代の流れもあり、ペーパーレス化による保管スペースの削減や、業務効率の向上にもお役立ていただいている企業社数は80社を超えました。その結果、削減された紙量は30,000枚にもなっています。また、郵送や発送準備におけるコストダウンでメリットがでており、今後も推進していくべきと感じています。

3. どのように「プレゼントツリー」の活動に参画するか

計量証明書等の電子化は、紙の削減により、遠くは森を守ることに繋がりますが、もっと貢献できる方法はないかと検討しました。その結果、e-計量へ登録していただいた登録企業社数について、1社1本の「プレゼントツリー」の苗木を寄付することとしました。

今回は初回ということもあり、開始より2年間にe-計量へ切り替えていただいた企業社数=植樹1本とし

て、71本の寄付を行うことといたしました。

4. 植樹の場所と時期について (写真1)

今回の企画にあたり、植樹の本数から、環境リレーションズ研究所様に植栽地を相談いたしました。植樹の適期は各地で年に1回、春植えか秋植えで、東海地方の植栽地は岐阜県高山市で秋植えとのことでした。そこで今回は、弊社の創業50周年事業も鑑み、春植えにすることといたしました。春植え地域は、東京か山梨になるということで、今回は弊社東京営業所もあることから、東京都檜原(ひのはら)村への植樹と決定しました。

5. 「Present Tree in 東京」(檜原村)への参加(写真2)

苗木をプレゼントする以上、実際にどのように植えられていくのか、どのようなイベントになるのかを体感したく、三重から檜原村へ行って参加することとしました。三重県四日市市からは最短4時間半の列車移動です。今回の集合場所である武蔵五日市駅は、東京駅からJR中央線を通り、1時間半もかかるJR五日市線の終着駅でした。

イベント前日より、終日雨が降り続いており、当日も雨予報。初めての植樹に長靴や合羽を持ちドキドキしながら現地へ向かいました。着いた駅は非常にきれいな駅舎で、エスカレーターやエレベーターも設置されており、すでに私の想像とは違う様子。さすが東京都の終着駅だ

東京に美しい 里山を取り戻す森づくり。

多摩地域の西部に、東京都檜原村(ひのはら)があります。
美しい山々と清流に育まれた豊かな自然は、
人々の生活の糧となり、
多くの生き物たちと共生してきました。
プレゼントツリーでは、
この村に在る人工林の伐採跡地に
地元産の広葉樹の森を育てることで、
「山奥(のどか)で美しい森を再生する」
美しい里山を再生します。



Present Tree: in TOKYO

写真1



写真 2



写真 4



写真 3

など妙に感心して駅を出たのでした。駅前イベント参加の方々と合流し、総勢 40 名ほどが 1 台の観光バスに乗車。いよいよイベントの開始です。

6. イベントの様子①バス移動 (写真 3)

バスの車内では環境リレーシヨンズ研究所の理事長鈴木様をはじめ、今回の企画・運営をなされる(株)さとゆめ様の挨拶を経て、バスはさらに山道を進みました。その道中、今回参加された方々の自己紹介があり、皆様のプレゼントツリーへの熱い思いを伺いました。途中トイレ休憩をはさみ、約 40 分後に今回の植栽地に到着。場所は整備された幹線道路(県道 205 号線)の真横で、その道路からすぐに植林がされていない山の斜面が確認できました。そのあとでわかったのですが、目に見える場所はすでに昨年、植樹が終わっている場所で、今回はその場所を抜けたさらに奥の場所でした。

7. イベントの様子②開会式 (写真 4)

植栽地では、4 者協定【椋原村(副村長)・小沢地区(会長)・管理される(株)東京チェンソーズ(代表)】それぞれ代表者挨拶を伺い、この地の抱える高齢化や後継者の問題を知ることができました。今回参加されてい

たのは、新規の方と 2 回目以上の方がそれぞれ半数程度とのこと。4, 5 歳のお子さん連れのご家族から、一人で参加されていた 84 歳のご婦人まで幅広い世代の方、そして参加形態も個人・企業とさまざまでした。記念撮影を行ったあと、320 本程度の苗木を分け、用意していただいたヘルメットをかぶり、斜面を登っていき植樹です。今回植樹する樹種は、広葉樹より地域に適したイロハモミジ・ヤマザクラなど自生していくような 5 品種が選ばれていました。

8. イベントの様子③植樹 (写真 5)

私は苗木の入った袋を持ち、15 分ほど整備された斜面を登って行きました。私の班は、神奈川県内の企業でこの企画に賛同されている方々と一緒でした。山を登る途中、昨年その方々が植えられた木々の横を通ったため、熱心その成長を確認されているのが印象的でした。各班には班長から、土の掘り方から苗木の植え方、整地の仕方など丁寧なレクチャーがあり、根付くように植えるコツを学びました。その後、一人一人が 1 本ずつ植えていくのですが、不安なくしっかり植えられたと思います。その場所から遠く見える山々は本当にきれいで、鶯の鳴き声を聞き、気持ちの良い汗をかきながら、この自然を守っていく必要性を感じるのです。

9. イベントの様子④昼食と人々との交流 (写真 6)

植樹が終わると待ちに待った昼食時間です。昨夜は大雨でしたが、ぬかるんでいることもなく、好きな場所にシートをひろげ、お弁当をいただきました。そのお弁当もその地域で採れた山菜等を使い、ここでしかいただくことのできないもので、田舎の味を感じられる素朴な中にも人の温かさの詰まったお弁当でした。そんなお弁当をいただきながら、一緒に参加した方々とゆっくり話すことができ、そういった交流も新鮮な時間となりました。



写真5

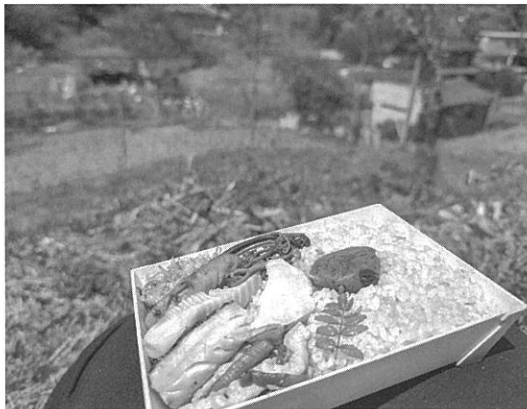


写真6



写真7

10. イベントの様子⑤小沢地区等散策

お昼休憩のあとは「地域の暮らし、文化、歴史について」をテーマにこの地域でガイドをされている方の案内でその地区を散策し、少し離れた場所にある檜原村の観光スポット「^{ほっさわ}弘沢の滝」を巡りました。そうして歩いて今回の植樹地を遠くから眺め、その土地を知ること、この地への愛着が強くなっていくように思います。ひと昔前まで、この地の人々が木を売って生活を成していたことが、時代の移り変わりで森を守っていく人も少なくなっている。その現実を都会の人に理解してもらい、活性化に繋げたいという思いがよくわかりました。

11. 最後に

今回、実際に植栽地を訪れ、植樹を経験することで、私の植えた木々の成長を今後も見届けていきたいという思いになりました。このプロジェクトのコンセプト、都心部の方に関心を持ってもらうことで、森林再生と地域振興との同時実現を目指すという目的に向けた活動内容により共感できました。多くの方と交流でき、貴重な体験ができたことは、大げさかもしれませんが、私の今後の生活にプラスになるはずで、三重県内には荒廃した里山はまだ少ないかもしれませんが、今後の人口減少や気候変動により国内にはそういった地域が多く出てくるでしょう。弊社の取り組みで植樹できる本数は



写真 8

微々たるものかもしれませんが、こういった活動があるということ、それを多くの方に伝えることはできると思います。SDGsの一環や脱炭素社会に向けた活動に終わらせず、この国の森を存続させるための活動に継続して寄与していければと考えています。

みなさんも、まずは一本の苗木を誰かに贈ってみてはいかがでしょうか？

■執筆者

伊藤みち

株式会社東海テクノ

三重県四日市市午起 2 丁目 4-18

TEL : 059-332-5122 FAX : 059-331-2289